

第 9 章

国立女性教育会館の大学職員研修

千装 将志

1 はじめに

男女共同参画社会の実現は、国、地方公共団体、国民すべてに課せられた責務であり、高等教育機関としての大学・短期大学・高等専門学校においても、その一翼を担うべきことが求められている。文部科学省の「女性研究者研究活動支援事業」などをきっかけに男女共同参画推進室が設置されるなど、大学等における男女共同参画推進への取組が進みつつある。

しかし、学内全体への男女共同参画意識の浸透や男女共同参画の推進体制はいまだ十分とは言えない。また、我が国における研究者に占める女性の割合は諸外国に比べ依然として低い状況にある。

このような状況を踏まえ、国立女性教育会館（NWEC）では、高等教育機関である大学・短期大学・高等専門学校における男女共同参画の推進に向けて、専門的、実践的な研修を平成 22 年度から継続して実施している。

2 研修の概要

本研修の位置づけ

平成 11 年に公布・施行された男女共同参画社会基本法に基づき、「第 3 次男女共同参画基本計画」が平成 22 年 12 月に閣議決定された。そのうち「第 11 分野 男女共同参画を推進し多様な選択を可能にする教育・学習の充実」では、

- ・高等教育機関における教育・研究活動が男女共同参画の理念を踏まえて行われるよう、大学の教職員を対象とした研修等の取組を促進する。
- ・様々な分野への女性の参画を促進するため、高等教育機関における男女共同参画の視点を踏まえたキャリア教育の推進を図る。

とあるように、高等教育における男女平等を推進する教育の充実を図ることが求められている。また、「第 12 分野 科学技術・学術分野における男女共同参画」では、

- ・科学技術・学術分野における女性の参画の拡大
- ・女性研究者の参画拡大に向けた環境づくり
- ・女子学生・生徒の理工系分野への進学促進

を大きな柱として、高等教育機関、研究機関での男女共同参画の積極的な推進を図ることが求められている。

国立女性教育会館ではこれ以前の平成 22 年 6 月、大学・公的研究機関等の男女共同参画オフィス管理職を対象に「大学・研究機関のための男女共同参画推進研修」を開催した。これが国立女性教育会館の開催する大学職員向け研修の最初である。以後、「第 3 次男女共同参画基本計画」の内容に基づき、研修タイトルの変更や対象者の拡大を行いながら、本研修は現在に至っている。対象者については、当初、学内の男女共同参画推進のためには学長等の意思決定者の意識変革が必要という観点から「管理職」「意思決定組織」といったところからの参加者をねらっていたが、学内の男女共同参画推進に直接関わる教職員の意識を高め、男女共同参画推進を学内へ提言していけるよう、担当者である教職員の参加も可能にしている（資料 1 参照）。

資料1 国立女性教育会館における大学職員研修タイトル、対象者の変遷

平成 22 年度「大学・研究機関のための男女共同参画推進研修」 対象者：大学・公的研究機関等の男女共同参画オフィス管理職
平成 23 年度「大学職員のための男女共同参画推進研修」 対象者：大学・公的研究機関等の意思決定組織に所属する教職員等
平成 24 年度「大学等における男女共同参画推進セミナー」 対象者：大学・短期大学・高等専門学校における意思決定組織に所属する教職員 (男女共同参画推進担当責任者も含む)
平成 25 年度「大学等における男女共同参画推進セミナー」 対象者：大学・短期大学・高等専門学校における男女共同参画推進に関わる教職員

本研修のプログラムデザイン

国立女性教育会館が主催する研修事業については、資料2に見られるような「プログラムデザイン」が示されることが多い。研修の対象、目的、研修中の目標、内容、方法等について、一枚のシートにまとめられたいわばシナリオのようなものである。プログラムの企画担当者はまずこれを作成し、具体的なプログラム案を練る。

3 研修の内容

平成 25 年度の大学職員向け研修

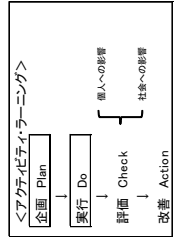
- (1) 研修名 平成 25 年度「大学等における男女共同参画推進セミナー」
- (2) プログラムの特徴
 - ① 大学等における男女共同参画推進の意義、男女共同参画意識を学内にどう浸透させるか、推進のための体制づくりをどう進めていくか、などについて考える。
 - ② 女性研究者に対する学内での支援、男女共同参画社会実現に向けての理系女子学生へのキャリア形成支援の実際について学ぶ。
 - ③ 全国各地の大学等の先進的な活動事例の報告から、実践に役立つヒントをつかむ。

資料2 平成25年度「大学等における男女共同参画推進セミナー」プログラムデザイン

【プログラムの特徴】

- ① 男女共同参画の視点を持ち、実態把握・課題分析を行い、実践力に結びつける。
- ② 参加者同士の関係・連携を向上させる。
- ③ 実践事例を重視する。
- ④ 研修の成果を自ら持ち帰って実践し、振り返り、さらなる事業や活動へ活かす。

<p>対象 大学・短期大学、高等専門学校における男女共同参画推進に関わる教職員 80名 大学等における男女共同参画を推進する上での特徴的な課題・阻害要因を知り、女性の参画を促進させる。</p>	<p>実態・問題・課題把握 (国の取組、動向、大学の課題把握)</p>	<p>実態・問題・課題分析</p>	<p>課題解決のための分析 課題解決に向けた実践力</p>	<p>実践活動への つながり</p>
<p>内容</p> <p>男女共同参画推進の視点</p> <p>○基調講演 「大学における男女共同参画の意義」</p> <p>男女共同参画推進の視点</p> <p>○文科省説明と質疑応答 「女性研究者支援と研究力強化」</p> <p>○情報提供(内閣府) 「内閣府主催の大学教職員等向け研修について」</p> <p>○情報提供(情報院) 「大学等における男女共同参画関連情報」</p> <p>○報告(研究国際室) 「大学等における男女共同参画に関する調査研究の報告」</p>	<p>実態・問題・課題分析</p> <p>○講義 「大学における女性のキャリア形成支援」</p> <p>○全体会 各分科会の報告による情報共有</p>	<p>実態・問題・課題分析</p> <p>○講義 「大学における女性のキャリア形成支援」</p> <p>○全体会 各分科会の報告による情報共有</p>	<p>課題解決のための分析 課題解決に向けた実践力</p> <p>○コース別ワークショップ ＜分科会1＞ 「大学における男女共同参画の体制づくり」</p> <p>＜分科会2＞ 「大学における女性研究者支援の在り方」</p> <p>＜分科会3＞ 「理系女子学生へのキャリア形成支援」</p>	<p>実践活動への つながり</p>
<p>方法</p> <p>講義と質疑</p> <p>講義と質疑</p> <p>講義と質疑、報告</p> <p>情報交換会</p> <p>グループワーク(事例報告、ディスカッション)</p> <p>情報交換会</p> <p>アンケート記入</p>	<p>講義と質疑</p> <p>講義と質疑</p> <p>講義と質疑、報告</p> <p>情報交換会</p> <p>グループワーク(事例報告、ディスカッション)</p> <p>情報交換会</p> <p>アンケート記入</p>	<p>講義と質疑</p> <p>講義と質疑</p> <p>講義と質疑、報告</p> <p>情報交換会</p> <p>グループワーク(事例報告、ディスカッション)</p> <p>情報交換会</p> <p>アンケート記入</p>	<p>課題解決のための分析 課題解決に向けた実践力</p> <p>○コース別ワークショップ ＜分科会1＞ 「大学における男女共同参画の体制づくり」</p> <p>＜分科会2＞ 「大学における女性研究者支援の在り方」</p> <p>＜分科会3＞ 「理系女子学生へのキャリア形成支援」</p>	<p>実践活動への つながり</p>



- ④ 宿泊研修の利点を活かし、全日程を通じて、全国からの参加者同士の情報交換や交流を支援する。
- (3) 対象・定員 大学・短期大学・高等専門学校における男女共同参画推進に関わる教職員 80名
- (4) 目的 大学等における男女共同参画を推進する上での特徴的な課題・阻害要因を知り、女性の参画を促進させる。
- (5) 内容 学内における男女共同参画推進の視点を理解するための基調講演、国の政策・動向、大学における課題把握のための文部科学省説明と質疑応答及び情報提供、課題分析のための講義、全体会、課題解決のための分析や課題解決に向けた実践力を身に付けるためのコース別ワークショップ(分科会)や情報交換会を行う。分科会のテーマは、大学等における男女共同参画推進上の課題に即し、学内での男女共同参画意識の浸透、推進体制づくりをどのように進めていくかという観点から「大学における男女共同参画の体制づくり」、学内の教職員、特に女性研究者に対する支援をどのように進めていくかという観点から「大学における女性研究者支援の在り方」、男女共同参画社会実現に向け、特に理系の女子学生のキャリア形成支援をどのように進めていくかという観点から「理系女子学生へのキャリア形成支援」の3つを設定する。また、事例に学ぶという観点から、各分科会で事例報告を行い、課題解決のためのグループ討議を行う展開とする。情報交換会については、希望者のみの参加ではあるが、宿泊研修の利点を活かし、宿泊棟を会場として参加者同士のネットワークを広げるとともに、他校の取組から自校の課題を把握し、解決のヒントを得る機会とする。
- (6) 日程
- 第一日 11月28日(木)
- 13:00~13:10 開会行事
- 13:15~14:45 基調講演「大学における男女共同参画の意義」
講師:羽入佐和子 お茶の水女子大学学長
- 15:00~15:30 文部科学省説明と質疑応答「女性研究者支援と研究力強

II 実践の展開

化」

講師：和田勝行 文部科学省科学技術・学術政策局人材政策課人材政策推進室室長

15：40～16：55 講義「大学における女性のキャリア形成支援」

講師：渡辺三枝子 筑波大学名誉教授 筑波大学大学研究センター客員
研究員

17：00～17：20 情報提供「内閣府主催の大学教職員等向け研修について」

講師：湯澤麻起子 内閣府男女共同参画局推進課暴力対策推進室課長補佐

17：30～18：00 情報提供（希望者のみ）「大学等における男女共同参画関連
情報」

講師：森未知 国立女性教育会館情報課専門職員

19：30～21：00 情報交換会（希望者のみ）

第二日 11月29日（金）

9：00～9：40 報告「大学等における男女共同参画に関する調査研究の報
告」

講師：野依智子 国立女性教育会館研究国際室研究員

9：50～11：50・12：50～14：20 コース別ワークショップ

分科会1「大学における男女共同参画の体制づくり」

事例①「全構成員で取組む男女共同参画～優しい大学づくりを目指して～」

報告者：長安めぐみ 香川大学特任教授 男女共同参画推進室副室長

石井明 香川大学工学部知能機能システム工学科教授 男女共
同参画推進室副室長

事例②「大学における男女共同参画意識共有のためのトップダウンとボトム
アップの相乗効果」

報告者：伊達紫 宮崎大学フロンティア科学実験総合センター教授

清花アテナ男女共同参画室室長

分科会2「大学における女性研究者支援の在り方」

事例①「名古屋大学における男女共同参画の取組」

報告者：東村博子 名古屋大学大学院生命農学研究科教授 男女共同参画担当総長補佐 男女共同参画室室長

事例②「上智大学の女性研究者支援モデル育成事業とその後」

報告者：ユウ・アンジェラ 上智大学学術交流担当副学長 上智学院男女共同参画推進室室長

分科会3「理系女子学生へのキャリア形成支援」

事例①「推薦入試（女子枠）での実績と工科系女子へのキャリア形成支援」

報告者：山下啓司 名古屋工業大学大学院物質工学専攻教授 工学教育総合センターキャリアサポートオフィス長

事例②「国立高専機構における女子学生へのキャリア形成支援の取組について」

報告者：内田由理子 香川高等専門学校一般教育科教授 国立高等専門学校機構男女共同参画推進室併任教授

14：30～15：00 全体会

15：00～15：10 ふりかえり・アンケート記入

15：10 閉会

(7) プログラム作成に当たって工夫・留意した点

- ・大学等における男女共同参画推進上の課題を踏まえたものとした。
- ・大きな柱となる課題として、「学内における男女共同参画の体制づくり」「学内における女性研究者支援の在り方」「男女共同参画実現に向けた理系女子学生へのキャリア形成支援」の3つを設定した。
- ・基調講演、講義、分科会は上記の3つの課題に即した内容のものとした。
- ・分科会は、上記の3つの課題について積極的な取組を行っている大学及び高等専門学校の先進事例に学ぶ内容とした。また、グループ討議等を通じて自校の男女共同参画推進上の課題が明確となり、今後の課題解決に向けたネットワークを構築できるようにした。
- ・分科会の時間を昨年度より十分に確保した。そのために全体のプログラムのコマ数を精選した。

II 実践の展開

- ・分科会終了後、全体会の時間を設定することにより、参加者が他の分科会の情報を共有できるようにした。
- ・1日目は座学中心、2日目はグループ討議中心のメリハリある日程とした。

4 平成25年度研修の成果

参加者の概況

- (1) 参加者定員 80名
- (2) 応募者数 94名
- (3) 参加者数 87名
- (4) 参加者内訳 教員系41名、職員系46名
- (5) 参加者の地域バランス
北海道・東北14名(16.1%) 関東31名(35.6%) 甲信越4名(4.6%)
北陸・東海10名(11.5%) 近畿9名(10.3%) 中国・四国10名(11.5%)
九州・沖縄9名(10.3%)

各プログラムで得られた成果

- (1) 基調講演「大学における男女共同参画の意義」
基調講演として、大学等における男女共同参画推進の基本的な部分に関する内容を取り上げた。講師の所属大学での事例など、具体的な取組が紹介され、男女共同参画推進に取り組む大学等にとっては、理解しやすく説得力のある内容となった。
- (2) 文部科学省説明と質疑応答「女性研究者支援と研究力強化」
女性研究者の現状、女性研究者支援の主な施策に関する説明を通じ、女性研究者の活躍促進の必要性や国の施策に関する最新情報を提供した。参加者に対し、女性研究者の活躍促進のための支援事業への関心を高める内容となった。



基調講演「大学における男女共同参画の意義」より

(3) 講義「大学における女性のキャリア形成支援」

男女共同参画社会の実現に向け、大学内における女性研究者や理系女子学生へのキャリア形成支援の必要性や在り方に関する講義を行った。現在の学生の意識など、具体的かつ核心を突いた内容は、キャリア形成支援に対する参加者の意識に新たな視点を与えるものとなった。

(4) 情報提供「内閣府主催の大学教職員等向け研修について」

内閣府からの要請により、内閣府主催の大学等教職員向け研修に関する情報提供を行った。特に若年層の男女間における暴力について、詳細なデータに基づく説明は、参加者にこの問題への認識を高めるとともに若年層への教育の重要性を改めて認識させるものとなった。

(5) 情報提供（希望者のみ）「大学等における男女共同参画関連情報」

NWEC女性教育情報センターが収集・提供する関連資料、女性情報ポータルWinetからデータベース検索を使った情報の活用についての情報提供を行った。資料やサイトの存在など、参加者にとって初めて知る内容が多く、今後の活用が期待されるものとなった。

(6) 情報交換会（希望者のみ）

自校での課題を解決するヒントを得ることや、参加者同士のネットワークを広げることを目的に情報交換会を開催した。短い時間ではあったが、他校の取組を知り、共通の苦労や悩みを共有する機会となった。

II 実践の展開

(7) 報告「大学等における男女共同参画に関する調査研究の報告」

NWEC 研究国際室が行う「大学等における男女共同参画に関する調査研究」について、昨年度の中間報告に続き、最新の結果について報告を行った。詳細なデータやその分析について、参加者には今後の業務を進める上での基礎知識となることに役立つとともに、今後発行予定の大学等における男女共同参画に関するハンドブックについて期待をふくらませるものとなった。

(8) コース別ワークショップ

分科会 1 「大学における男女共同参画の体制づくり」

分科会 2 「大学における女性研究者支援の在り方」

分科会 3 「理系女子学生へのキャリア形成支援」

事例に学び、自校の課題の解決につながる実践力をつけるため、各分科会とも、事例発表をもとにグループ討議を行った。各分科会のテーマは、「大学における男女共同参画の体制づくり」「大学における女性研究者支援の在り方」「理系女子学生へのキャリア形成支援」の3つを設定した。それぞれのテーマについて積極的な取組を行っている大学及び高等専門学校的事例発表を行い、報告者も交えたグループ討議を行った。各分科会とも各校での現状と課題について情報交換するとともに、自校の課題の把握や分析、今後の推進に向けての見通しを立てることに役立つ事例発表、グループ討議となった。



分科会 1 「大学における男女共同参画の体制づくり」より



分科会 2 「大学における女性研究者支援の在り方」より



分科会 3 「理系女子学生へのキャリア形成支援」より

(9) 全体会

各分科会での事例発表の内容やグループ討議の様子などについて、全体会で報告し合い、参加者の情報共有を行う目的で実施した。参加者にとっては、自分が参加していない他の分科会の概要を把握することができ、自身の研修内容に幅を持たせることができる機会となった。

プログラム全体で得られた知見

高等教育機関である大学・短期大学・高等専門学校における男女共同参画推進に向け、講義、事例発表、分科会でのグループワーク等を通じて、学内における男女共同参画の体制づくりや女性研究者支援の在り方、男女共同参画社会実現に向けた理系女子学生へのキャリア形成支援という課題について、理解を深めることができた。また、参加者同士の意見交換、情報交換により、自校の男女共同参

画推進上の課題を明確にするとともに、今後の課題解決に向けたネットワークを構築することができた。

アンケート結果から

- (1) 全体の満足度 97. 2% (非常に満足 43. 5% 満足 53. 7%)
- (2) プログラムの有用度 98. 6% (非常に有用 56. 6% 有用 42. 0%)
- (3) 主な意見・感想等
 - ・グループワークもあり、それぞれが日ごろからかかえている問題をはき出し、共有することで、勇気づけられ、これからのモチベーションも変わってくるのではないかと感じた。
 - ・他大学の取組や事例を聞くことができ、参考になった。
 - ・女子学生支援について教員間で、その必要性を論じていたところだったので、各校の状況などが具体的にわかり非常に参考になった。
 - ・男女共同参画の関連のセミナーに参加したのが初めてだったので、基本的な知識・情報から課題解決の手法まで取り上げていただけて充実したセミナーを過ごすことができた。
 - ・同じ立場の方々と情報交換でき、新たなネットワークが築けてよかった。宿泊研修なので日頃の忙しい業務を離れることができ、じっくり考えることができ満足した。
 - ・内容的に満足だが、慌ただしいプログラムだったように感じた。

プログラム全体の振り返り

文部科学省の「女性研究者研究活動支援事業」などにより各大学には男女共同参画室、女性研究者支援室などの推進体制ができつつあるが、学校間によって取組にまだ差が見られる。こうした中、学内における男女共同参画の体制づくりや女性研究者支援の在り方、男女共同参画社会実現に向けた理系女子学生へのキャリア形成支援を課題の大きな柱として研修を展開したことは、時宜に合わせた取組であった。

3つの大きな課題解決を目指した分科会の設定や、宿泊を伴う研修を活かし、宿泊棟を会場とする情報交換会の設定は、参加者同士のネットワークを広げるとともに、他校の取組から自校の課題を把握し、解決のヒントを得る機会を提供するものであった。

各課題に即した講義、分科会での各大学等の事例報告や講師も交えたグループワークなどを通じて、参加者が自校の課題の把握や分析、課題解決のヒントをつかむことは、研修終了後も各校の業務における発展性が見られるものと期待できる。

講師については、国立大学、私立大学、省庁関係者等から幅広く講師、事例報告者を選出し、プログラムの特徴を踏まえた事業実施となった。講師の依頼については、昨年度より時期を早め、知名度の高い講師を招聘できるよう計画的に依頼交渉を進めた。また、大学における男女共同参画の調査研究を進めている当会館研究国際室と連携して事例報告者（校）を選定するなど、効率よく人選が進められるようにした。

大学等における男女共同参画推進への取組は進みつつあるが、十分であるとは言えない。また、文部科学省の支援事業終了後の女性研究者支援をいかに継続していくか、男女共同参画社会実現のための理系女子学生へのキャリア形成支援の方法など、課題は多い。その中で各課題に対する基本的な考え方、先進的な取組を行っている学校の事例、分科会での討議など、全体の動向や他校の推進状況について多くの情報を得ることができる本研修の意義は大きい。また、アンケート結果を見ても、満足度、有用度ともに100%に近い数字となっているなど、高い評価を得ており、本研修のねらいは十分達成できたと考えられる。

5 おわりに——次年度へ向けて

本研修の成果をもとに研修内容をさらに充実、発展させることはもちろん、1200校を超える大学・短期大学・高等専門学校から1校でも多くの参加を得られることが大きな課題である。今回の研修から、参加対象者を学内で「意思決定

II 実践の展開

組織に所属する教職員」から「男女共同参画推進に関わる教職員」と間口を広げたように、実際に推進業務を担当する者が参加し、自らの男女共同参画意識を高め、学内に提言していくことが重要と考える。参加者募集における広報についても、あて先を男女共同参画室、女性研究者支援室などとし、男女共同参画推進を担当する部署に直接届くようにした。その結果、全国立大学、推進担当部署が明示されている公立大学、積極的に推進している私立大学等への電話による募集活動の際も、募集の案内がすでに届いていることから円滑に話ができるところが多かった。このような地道な広報活動を次年度も継続して行っていく必要がある。また、募集に当たっては、文部科学省、一般社団法人国立大学協会、日本私立大学団体連合会、日本私立短期大学協会、独立行政法人国立高等専門学校機構からの後援を受けた。新たに一般社団法人公立大学協会への後援申請を行うとともに、今後もこうした連携を重視して、参加者を拡大するとともに学内における男女共同参画意識の浸透が進められるようにすることが必要である。

(ちぎら・まさし 国立女性教育会館事業課専門職員)